

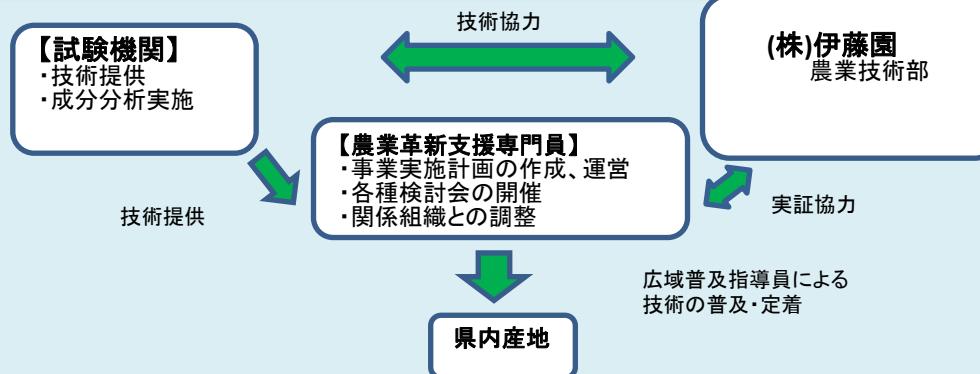
【事業の実施方針】

大分県では平成18年からドリンク茶の原料の生産を開始しており、多収穫品種を中心に作期分散や、各品種の特性をいかした栽培方法の確立を図り、(株)伊藤園と連携し技術の実証・展示、マニュアルの作成を通じて県域全体への普及・定着を推進する。

新技術の内容

多収穫品種の作期分散、栽培技術(2010年に大分県農林水産研究指導センターで開発。)一番茶目標生葉収量1,000kg、二番茶700kg、三番茶300kg合計2,000kg/10aを一定の品質(繊維質、窒素成分等分析値並びに外観・内室審査)を確保しつつ、達成。

実施体制図(研究・行政等との連携、役割分担等)



24年度事業の取組内容

【実証ほ設置検討会1回(2月)】

農業革新支援専門員、試験研究、伊藤園とが中心となり、調査項目・手法等を決定。

【実証ほ設置(1カ所)(4~3月)】

【現地検討会(多収栽培技術農業者等研修会)開催2回(12、2月)】
ドリンク茶を出荷する法人等で成果検討を行った。

【先進地視察2回(1月、2月)】

農業革新支援専門員が長崎県においてドリンク茶工場の先進事例調査を実施。

【成績検討会(導入効果の分析・評価)(1回)(3月)】

実証ほ設置検討会出席者により、今年度の課題の整理と次年度に向けた改善方策を検討した。



【成果目標及び達成状況】(H25. 2月末現在)

平成23年度(基準年): 40戸、78ha、71t、合格率49%

平成24年度(実績): 30戸、101ha、121t、合格率42%

平成28年度(目標年): 40戸、150ha、400t、合格率80%

技術実証の成績等(H24)

- ・実証的には年間生葉収量2tは達成でき、品質も合格できた。
- ・実証圃外の通常栽培圃場でも、目標収量、品質の確保が必要。引き続き栽培を行う

・産地によって合格率に差があった

	H23	H24	H25
専用産地	38.6%	37.3%	50%
既存産地	63.1%	51.9%	70%
計	49.1%	41.5%	60%

技術実証及び技術普及における課題(H24)

・通常栽培での単年度での多収穫技術にはめどがついたが、連年多収が可能か実証を重ねて行く必要がある。

- ・法人間や品種ごとで品質にバラツキがあり、品質適合率の向上が必要である。
- ・ドリンク専用荒茶工場を建設し、平成25年度から稼働するが、作期分散技術の確立を図る。

次年度に向けた課題への対応方策

- ・単年度の多収穫技術は実証できたが、次年度も多収穫が達成できるようドリンク茶栽培マニュアルを実証し検証していく。
- ・法人ごとに合格率差がある要因がなにかを調査・検証していく。
- ・次年度は、作期分散のための実証圃を現地に設置し、荒茶工場の効率的運営を行い、実需が求める品質・収量を実証していく。